

第21回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本報告書は、「走近日企・感受日本」事業の第21回訪日団の報告書です。

本事業は、中国日本商会在会員からの寄付金を原資として、中国人大学生を訪日視察に招待派遣するもので、2007年から年に2回実施しており、今回までに30大学652名の学生に参加いただきました。

特に昨年は日中国交正常化45周年であったことより、本事業もその記念事業の一つとしての認定を受けて実施されました。次代の中国を担う若者に日本の実像に触れてもらう機会を提供する本事業は、日中両国民の相互理解の増進に大きく貢献しているものと自負しております。

2017年には中国から735.6万人の方が日本を訪れており、本事業開始当時とは状況が異なっておりますが、若い世代の人たちが初めて訪れる日本で見て聞いて感じて得られる感動はその後の人生や日中友好に少なからず好影響をもたらすことは不変であると信じております。

さて、第21回訪日団は、2017年11月28日から12月5日までの8日間、6大学から選抜した30名で編成され、一同、様々な日本に触れて無事終了することができました。

このたびの訪日では、東京、愛知、兵庫で会員企業7社を視察させていただいたほか、大阪大学、中央大学における日本人大学生との交流、中国大使館の訪問、日比谷松本楼の視察、一泊二日のホームステイ体験など、多彩なプログラムを実施しました。ホームステイの受入れにご協力いただいた企業は17社にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会の会員企業の多大なる協力と貢献のもとに実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会に全面的なご協力をいただくとともに、一般財団法人日中経済協会、中国友好和平発展基金会と公益社団法人企業市民協議会(CBCC)に適切な寄付金の管理を行っていただいております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力をいただいているすべての関係者に厚くお礼を申し上げます。

本事業が日中相互の国民レベルでの理解促進の一助となり、将来さらに大きな実を結ぶことになれば、これに勝る喜びはありません。

なお、今回が第2期(2012年～2017年)の最終回となりますが、既に第3期の寄付を募っており、2018年以降も次代の中国を担う若者の日本との交流と理解促進を図ってまいります。

中国日本商会 会長 上田明裕

2018年1月